

令和8年3月15日

保護者の皆様
地域の皆様

さくらの学び舎 世田谷区立笹原小学校
校長 吉田 健二

次年度(令和8年度)に向けた改善方策

令和7年度笹原小学校学校関係者評価委員会による、「令和7年度学校関係者評価委員会報告書」により提言いただいた項目について、次年度に向けた回答・改善方策を以下の通りお示しいたします。

項番	提言	回答・改善方策
1	<u>アンケート回答率を高める工夫を継続すること</u> 「昨年度はこの取り組みが全体の回答率上昇に功を奏したため、次年度の実施も検討するとよいかもしれない。地域の方々についても、回答率上昇の要因が思い当たるならば、引き続きその工夫を継続するとよいだろう。」	学校評価アンケートの意義や活用目的がより伝わるよう、保護者会や学校だより、すぐーる、ホームページ等を通して丁寧に周知してまいります。また、案内文面や配信方法も工夫し、回答しやすい時期や方法を見直すことで、回答率の向上を図ります。
2	<u>「学ぶことが楽しい」と感じられる授業づくりを一層進めること</u> 「学校は学ぶことの楽しみを児童に伝える取り組みを続けつつも、来年度以降も慎重な検討・評価を続ける必要があるだろう。」	「課題設定」「課題解決」「ふりかえり」を重視した授業を通して、子どもたちが「分かった」「できた」と実感できる学びを進めます。形成的評価を生かして一人一人のつまずきを丁寧に捉え、学ぶことの楽しさや達成感につながる授業改善を継続します。
3	<u>考える活動を、判断し行動する力へつなげる指導を充実させること</u> 「現代の教育として注目されている話し合いや学び合いに関する項目の肯定的評価は、児童・保護者ともに高い肯定的回答率がある一方で、実際に判断し行動することができるか問う項目になると、保護者の肯定的回答率は上昇傾向があるが児童の肯定的回答率は減少している。時代に合った教育方法の流行を取り入れつつも、新しい方法に過度に振りまわされることなく、その方法を通して子どもたちに教えたいことや教えるべきことは一体何なのかを逃さずに、子どもの学びを保障していくことが、教員に求められているともいえるだろう。」	子どもたちが自分の考えをもつだけでなく、友達との話し合いや比較・検討を通して考えを深め、その上で自分なりに判断し、行動に移すことができる力の育成を重視していきます。授業や学級活動の中で、自分の考えをもち、友達と話し合い、理由をもって判断し行動する場面を意図的に設定します。思考力・判断力・表現力を関連させながら育て、学んだことを実生活の中で生かせる力の育成を図ります。

4	<p>多様性を尊重する学校風土と、相談しやすい教職員体制を維持・充実すること</p> <p>「児童だけではなく教員も、わからないことがあれば『わからない』と素直に口に出せたり、気軽に相談できたりする環境が守られているなど、自己統制感を失うことなく直面した問題と向き合っていける環境の確保が、多様性を尊重し合う社会を維持するにおいて重要であると言えるかもしれない。」</p>	<p>全ての子どもを全教職員で育てるという考えのもと、インクルーシブ教育を推進します。生活指導夕会や校内支援委員会を活用して情報共有を進め、子どもにも教職員にも相談しやすい、温かく支え合う学校づくりを進めます。児童にとっても教職員にとっても、「困ったことを相談できる」「違いを認め合える」環境を維持し、温かく支え合う学校風土を育てていきます。</p>
5	<p>手洗い・うがい等の健康意識と、施設・資源を大切に する指導を継続すること</p> <p>「手洗いやうがいの意識に関する児童の肯定的回答率に低下がみられた一方で、保護者の肯定的回答率は上昇した。また、児童が蛇口の栓を閉め忘れ、水道の水が流れっぱなしになっている状況が繰り返し観察されたとの情報提供があった。いずれ学校現場にも自動水栓が当たり前となる日が来るだろうが、それまでは、既存の学校環境設備を大切に使う、有限な資源を大事にすると言った観点からの指導が求められるだろう。」</p>	<p>うがい・手洗い、せきエチケットなどの基本的な感染症予防行動を、日常の学校生活の中で継続して指導します。また、保健指導や学級での声かけを通して、自分の健康を守る行動が周囲の健康を守ることにもつながるという意識を育てます。あわせて、水道や学校の設備・備品を大切に扱うことについても、節水や資源を大切にする視点から日常的に指導し、健康で安全な生活習慣の定着を図ります。</p>
6	<p>将来の生き方や目標を考える力を育てるため、小目標や計画づくりの指導を工夫すること</p> <p>「児童は、授業中の学習のめあてなどの短期的目標を意識し努力することはできるが、将来のことなどの長期的目標に向けて考えることには課題があると言えるのではないだろうか。目標達成に至るまでの小目標を立てるなど、上手な計画の仕方を身に付けることが、目標にむけて粘り強く努力する力を育むために有効となるかもしれない。」</p>	<p>キャリア・未来デザイン教育や日々の学習活動を通して、また高学年においてはキャリア教室等も活用して、子どもたちが学ぶことや働くこと、社会に役立つことの意味を実感し、自分の将来や生き方について考える機会を充実させます。あわせて、身近な小目標を立て、見通しをもつとともに、ふりかえりながら努力を積み重ねることができるよう、計画的な指導を進めます。</p>
7	<p>読書活動を学校全体で再活性化すること</p> <p>「『No タブレットデー』(タブレットを開かない代わりに本は許可する日)を設けるなど、より積極的な読書活動の推進を学校全体で実施することも、現代の子どもたちが本に親しむ経験を保障する上で有効かもしれない。」</p>	<p>学校図書館や学級文庫、PTA寄贈本などを生かし、子どもたちが本に親しむ機会を意図的に増やしてまいります。タブレットを閉じて紙の本をじっくり読む時間を大切にしたり、学習用タブレット端末でのデジタルブックを活用したり、多様な方法で読むことの楽しさや習慣化につながる取組を学校全体で進めます。</p>
8	<p>笹の子班活動の意義を保護者により伝える工夫を行</p>	<p>笹の子遊びや笹の子まつりを、異年齢で関わ</p>

	<p><u>うこと</u></p> <p>『ささのこまつり』が平日開催となったことが、笹の子班活動の保護者肯定的回答に影響した可能性がある。本校独自の笹の子班活動の意義について保護者により理解していただくためには、新たな工夫が求められるだろう。」</p>	<p>り合いながら思いやりや協働する力を育てる大切な活動として引き続き充実させます。あわせて、活動のねらい、子どもたちの様子、育っている力について、学校だよりやホームページ等で活動の様子や意義を具体的に発信し、保護者の理解促進に努めます。</p>
9	<p><u>学校の学習指導の工夫を、保護者により実感できる形で可視化すること</u></p> <p>「保護者アンケートでは、学習指導に関する項目について「わからない」の回答率が高かった。今後どのように保護者に学校が実施している学習指導の工夫を実感していただくか、もしくは、アンケートの質問項目を見直して、新たな項目で保護者に本校の『よりよい教育活動』を評価していただくことも含め、来年度検討しなおしてもよいだろう。」</p>	<p>日々の授業改善の取組が保護者の皆様により伝わるよう、授業における話し合い活動、黒板やプリントの工夫、タブレット活用などの取組について、学校だより、ホームページ、保護者会等を通して具体的に発信します。子どもの学びの様子や育っている力が保護者に伝わるよう、可視化の工夫を進めます。学校公開の持ち方や内容の工夫、アンケート項目の見直しも含め、保護者の皆様が本校の教育活動を実感しやすい仕組みづくりを進めます。</p>
10	<p><u>あいさつに関する現在の取組を継続し、習慣化をさらに進めること</u></p> <p>「これら取り組みはぜひともこのまま継続していただきたい。日頃から気持ち良いあいさつが交わされるような整った環境に置かれた子どもは、あいさつの意義を体感的に理解することだろう。」</p>	<p>毎月の「あいさつ週間」を中心に、教職員からの声かけや児童の主体的な活動を継続します。あいさつを通して相手を大切にす気持ちや安心して関わり合える関係を育み、学校や地域で自然にあいさつが広がるよう習慣化を図ります。</p>
11	<p><u>キャリア教育の意味や役割を、保護者・地域へさらに丁寧に発信すること</u></p> <p>「今後も、引き続きの学校からの情報提供はもちろん、日頃の教育活動を通して児童の変化を見ていただいたり、『キャリア教育』の広義な意味と役割について説明をしたりすることで、保護者や地域の方々へのキャリア教育の理解・啓発を推し進めていただきたい。」</p>	<p>本校ではキャリア教育を、将来の職業選択だけでなく、学ぶことの意味や社会とのつながりを考え、自分らしい生き方を築いていくための教育として位置づけています。キャリア教室や学び舎の連携、地域・保護者の人材を生かした学習活動を通して、子どもたちが多様な生き方や働き方に触れる機会を充実させます。また、その意義や子どもの育ちの姿について、学校から丁寧に発信し、理解啓発を進めます。</p>
12	<p><u>保護者・地域との連携・協働の体制を維持し、必要に応じて協力を得ること</u></p> <p>「委員が授業や行事を見学させていただいたところでは、本校の保護者は潜在的な学校参加のモチベーションをお持ちであるように感じた。もちろん保護者に強いることはできないが、適宜協力を仰ぐことで、</p>	<p>学校運営協議会、PTA、おやじの会、地域団体、学校支援コーディネーター等との連携を一層深め、保護者・地域の教育力を積極的に教育活動に生かしてまいります。町探検、昔遊び、キャリア教室等、保護者・地域の皆様の参加・参画を大切にしながら、学校と家庭・地域</p>

	<p>これまで築いてきた学校と保護者の連携や協働の体制を保っていけるとよいだろう。」</p>	<p>が支え合う体制の充実を図ります。地域の教育力を生かした「『魅力ある学校』に関する研究」にも取り組みます。</p>
13	<p><u>全ての子が自分らしく成長していくことができる温かな指導や支援を継続していくこと</u></p> <p>「一昨年の総合所見から、気になる兆候として年々落ち着きのない児童が増加していることが挙げられている。学校全体での努力が実り、年々落ち着きつつあるが、対応が不要になったとまでは言えない。時間はかかるだろうが、今後も根気強い指導と、丁寧なケアを長い目で続けていく必要があるだろう。」</p>	<p>集団生活への適応に困難を抱える児童も含め、全ての子どもが安心して学校生活を送れるよう温かな指導と継続的な支援を行います。必要な支援や対応を担任一人に抱え込ませるのではなく、校内支援委員会や生活指導夕会、関係機関との連携を生かしながら、根気強く丁寧に寄り添う指導を進めます。</p>